平成２０年度　第３回磯子区地域福祉保健計画推進委員会議事録	
開催日時	平成２１年２月２３日（月）午後６時３０分から午後８時１０分まで
開催場所	磯子区役所　７０１・７０２号会議室
出 席 者 (敬称略)	＜委員＞ 吉田修（委員長）、鈴木伊三雄（副委員長）、佐々美弥子（副委員長）、 佐藤裕子、関いづみ、上杉惇、福士市子、水越尚登、濵田歳久、堤幸雄、櫻井重人、 関野芙美子、小宮山滋、時任和子、矢野菊枝、岩瀬すゑ、嘉代哲也 ＜オブザーバー（ケアプラザ）＞ 柏村麻佐子（磯子）、村崎慶太郎（屏風ヶ浦）、岸本文惠（新杉田）、松田健也（洋光台）
欠 席 者 (敬称略)	三澤繁次、中里順子、大平清子、野田良二
事 務 局	＜区＞　宇賀神センター長、高柳担当部長、林福祉保健課長、中村事業企画係長、 伊東（秀）、小林、近藤、伊東（ゆ）、小先 ＜区社協＞　内藤事務局長、中島次長、谷口
議　　事	・　センター長あいさつ １　事務局からの報告等 （１）　平成 20 年度の取組について 根岸地区の福祉と保健に関する意識調査結果、しあわせバンクの取組、３年間の振り返りアンケート（案）について、事務局から説明（資料１～３） ＜意見等＞ ・　根岸地区でのしあわせバンクの取組の経過についてよくわかった。 ・　３年間の振り返りアンケートは、根岸地区のみ行うのか。 →　３月 10 日に開催する「スイッチＯＮ磯子」地区推進委員会正副会長会にて、10 地区全てに依頼する予定である。 （２）　平成 21 年度の進め方について （３）　その他 平成 21 年度の進め方について、事務局から説明（資料４） （資料５のまめ通信第 19 号の説明は割愛） ＜意見等＞ ・　21 年度助成金の「意見交換会支援分」について、地区で講師を呼んで勉強会を行う場合の講師謝金も対象となるのか。 →　意見交換会の資料代やお茶代への助成と考えている。 ・　地域ケア連絡会合同会議において、医師を講師として勉強会を行いたいと計画しているが、地区をまたがって開催する場合でも意見交換会支援分の助成金を使うことは可能か。 →　意見交換会支援分助成金については、単位自治会町内会規模の小さな単位での話し合いを支援するものと考えている。地区をまたがって開催する場合の勉強会については、従来の各地区への助成金を使ってもらいたい。

	・　根岸地区での調査結果によると、「スイッチＯＮ磯子」の認知度は約 15%であるが、繰り返しＰＲしていくことで、少しでも多くの人に「スイッチＯＮ磯子」を知ってもらえるのではないかと思う。来年度も「まめ通信」を引き続き発行していくとのことであるが、「スイッチＯＮ磯子」をＰＲしていくために、事務局として考えがあれば聞かせてほしい。 → 現在「まめ通信」を約 2,000 部発行しているが、直接配布するのは各団体の代表者どまりとなっている。地域で掲示や配布などの希望があれば対応できるので、事務局まで連絡していただきたい。また、広報よこはま磯子区版などでも引き続きＰＲを行っていく予定である。 ２　グループ討議 ４グループに分かれて「現行計画の３年間を振り返って」というテーマで議論を行い、各グループから討議内容を発表。 ＜Ａグループ＞ ・　地区で従来実施してきた事業とスイッチＯＮの事業との違いについて、計画がスタートした時の戸惑いがいまだに残っているように感じる。 ・　地域の役員の方々は複数の役職を持っているため、どの会合も顔ぶれがほとんど同じであり、そのことが全体としての停滞につながっているのではないか。 ・　地区社協とスイッチＯＮとの関係が微妙であり、また、支えあいとスイッチＯＮとのしっくりいかない関係もいまだに続いている。行政は異動により人が変わっていくが、地域の人は長期間活動するため、地域の人の認識がしっかりしないと活動が安定しないと思う。 ＜Ｂグループ＞ ・　スイッチＯＮを知らない人に対してどのように広めていくかが課題。面白い企画には人が集まるので、大勢の人が集まるようなことをそれぞれの地区で考えていくべきでは。また、今の計画を策定する時にインタビューした方々に対してフォローすることを通じても広がっていくのではないか。 ・　少しでも住みよい町をつくっていくことのきっかけとなる取組なので、大切にしていきたい。 ＜Ｃグループ＞ ・　老人クラブ連合会の中で、それぞれの地区のスイッチＯＮの取組についての話を聞くことが増えてきているので、地域に少しずつ根付いてきていると思う。 ・　障害者が区域でまとまって活動するのは難しい。それぞれの団体では活発に活動しているが、どのようにして地域とつながっていくかが課題であると思う。 ・　計画を推進していくためには、地域で活動を実践している方々の意見を聞くことが必要である。そのためには「区」の推進委員会の委員の組み替えがあってもよいのではないか。地域で取組を進めていく上で何が課題になっているかについて、他の地区の人と意見交換することで見えてくることがあるのでは。

	・　地域ではさまざまな活動がすでに行われている。それらの活動を時間をかけながらつなげていくことが、スイッチＯＮの推進につながるのだと思う。 ＜Ｄグループ＞ ・　スイッチＯＮの取組の中で、障害者施設が地域の防犯パトロールなどに参加し、地域とのつながりができてきている。 ・　根岸地区の調査結果を見ると若い世代の意見が少ない。世代別の意見を聞き、反映させていくための工夫が求められると思う。 ・　スイッチＯＮは名前がわかりにくく、一般の人になかなか浸透していかない。多くの人に知ってもらうためには、地域に出向いて説明していくことが有効なのでは。 ・　地区社協とスイッチＯＮの違いがわかりにくいため、整理していく必要があると思う。 ・　それぞれの地区の良い取組を他の地区にも広げ、活動がより活発になるように仕向けていくべきなのではないか。 ・ まとめとあいさつ（高柳担当部長） グループ討議では各グループで活発に意見が出され、有意義な話ができたと思う。 スイッチＯＮと支えあい事業の関係については、スタートした時のしこりがいまだに残っていることを行政としても認識しており、次期計画策定に向けて整理が必要であると感じている。 スイッチＯＮを多くの人に知ってもらうための方法については、どのグループでも共通の話題となっており、担い手や取組内容を広げていくためのＰＲ方法について、さらに考えていく必要があると思う。新しいことを始めるだけではなく、今ある活動をどのようにつなげていくかが重要であり、それが計画を充実させ、浸透させていくことにつながるのではないか。 「区」の推進委員会のあり方については、現在の推進委員会ではそれぞれの地区がどのような取組を行っているかが把握しづらいため、地域で活動を実践している方々が中心となるべきではという意見が出されており、次期計画の策定にあたっては地域が基本となってくるということを改めて認識した。 来年度からは、地域、区社協、区役所が一緒になって次期計画をつくっていくことになるので、皆さんと協力しながら進めていきたい。